



私の  
**なんとか  
しなきゃ!**

Vol. 70

## PROFILE

1970年京都府出身。高校3年時にインターハイで3冠を達成し、卒業後、プロに転向。95年には自己最高の世界ランキング4位を記録。96年の引退後、約12年間のブランクを経て、2008年に登録名を「クルム伊達公子」として現役復帰した。02年にはJICAオフィシャルサポーターに就任。開発途上国の子どもたちにテニスの楽しさを伝える活動などを行った。

「伊達公子」から「クルム伊達公子」として、再びコートの上に立つことを決意したのは今から8年前。2度目の現役生活は、テニスそのものを心から楽しむことができ、充実しています。

ただ、引退してから復帰するまでの12年間も、フルマラソンに参加したり、ピラティスの資格を取得したりと、新しい挑戦ができた大切な時間です。とりわけ、開発途上国の子どもたちにテニスを体験してもらう活動は、それまで自分が知らなかった世界とつながる機会を与えてくれました。

もともと「カモン!キッズテニス」として日本で行っていたこの活動の舞台を世界に広げたいきっかけは、国際交流基金から、中国でキッズテニスを開催してほしいとお話があったことです。それまでアジアの大会に出場した経験はなく、人生で初めて上海と北京を訪れました。すると迎えてくれた現地の人たちが、私のことを「日本の伊達公子」ではなく、「アジアの伊達公子」として見てくれていることに気付いたのです。当時

テニスプレーヤー(エステティックTBC所属)

## クルム伊達公子

DATE-KRUMM Kimiko



はまだ、アジア出身のテニスプレーヤーが少なかったからでしょう。「日本という枠にとらわれず、自分にできることをやりたい」という思いが芽生えた瞬間でした。

その後、JICAのオフィシャルサポーターに就任し、ベトナム、ジャマイカ、モンゴルなど、さまざまな国でキッズテニスを開催しました。特に印象に残っている国は、アフリカのマラウイですね。子どもたちは、最初は初めてのテニスに戸惑っていましたが、次第に靴を脱いでコートの中を元氣よく走り回っていました。

また、社会起業家のジョン・ウッド氏の著書に感銘を受け、10年ほど前にラオスに学校を作るプロジェクトに携わりました。まだ現地を訪問する夢が実現できていないので、いつかその学校でもキッズテニスが開催できればいいなと思っています。

私はキッズテニスを通じて、自律心や決断力、海外生活で培った自己表現力など、自分自身がテニスから学んだこと

を伝えてきました。たとえば道具や施設が十分に備わってなくても、スポーツだからこそできることは数多くあります。

今年2月、私は左膝の手術というアスリート人生をかけた大きな決断をしました。手術後はリハビリに励み、車椅子に座った状態でボールを打てるようになったり、松葉杖を使わずに歩けるようになったりと、少しずつですが一步一步進んでいます。

多くの気付きと出会いをくれたキッズテニスの経験は、私にとって特別なものです。この先の人生、どのような形であれ世界とのつながりは絶やさずに持ち続けたいです。そのためにも、もう一度コートに立てる日を信じて——。今は前だけを見て進みたいと思います。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で  検索